



平成 16 年 7 月期 第 1 四半期業績概要 (連結)

平成 15 年 11 月 28 日

会社名 日本駐車場開発株式会社
コード番号 2353
(URL <http://www.nittyu.co.jp>)
代表者 役職名 代表取締役社長
氏名 巽 一久
問い合わせ先 責任者役職名 取締役副社長
氏名 岡田 建二
決算取締役会開催日 平成 15 年 11 月 28 日

登録銘柄
本社所在都道府県 大阪府
TEL (06) 6227 - 6777

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

(1) 売上高又は売上に相当する事項の会計処理の方法の最近連結会計年度 : 無
における認識の方法との相違の有無

(2) 連結範囲及び持分法の適用の異動状況

- ・連結 (新規) 1社 (除外) 社
- ・持分法 (新規) 社 (除外) 社

(注) 収益物件としての駐車場流通マーケットを確立し、当社グループとして、コンサルティングやデューデリジェンス等事業の拡大と強化及び駐車場所有者へのソリューションを強化する為、平成 15 年 8 月に株式会社マーケットメイカーズを連結子会社として設立致しました。

2. 平成 16 年 7 月期第 1 四半期の概況 (平成 15 年 8 月 1 日 ~ 平成 15 年 10 月 31 日)

(1) 連結経営成績

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
16 年 7 月期第 1 四半期	807	50.8	143	86.7	145	90.6
15 年 7 月期第 1 四半期	535		76		76	
(参考) 15 年 7 月期	2,512	59.9	427	111.6	422	102.0

(注) 1. 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

2. パーセント表示は、対前年同期比増減率を示す。

[経営成績の進捗状況に関する定性的情報等]

当四半期の国内経済は、企業収益の改善から民間設備投資に持ち直しが見られたものの、雇用不安やイラク問題をはじめとする不安定な国際情勢などから依然として先行きに不透明感があり、厳しい状況が続いております。

当社グループは、このような厳しい環境のなか、積極的な営業展開をすることにより直営物件数を増加させ、また前期以前の受注済み物件からも確実に収益貢献を得て、業績を拡大いたしました。特に前期に獲得した大型商業施設併設駐車場、再開発型大型ビル附置駐車場、ホテル併設駐車場などが売上、利益ともに大きく貢献しました。また店舗の統廃合を推進する金融機関等、遊休資産を抱える企業から受注した物件の稼働が堅調に推移し、直営事業において 733 百万円を計上した結果、売上高合計は 807 百万円となりました。

直営事業の売上構成比が 90.9%となり、安定的収益増に貢献したことから、営業利益は 143 百万円を計上し、売上高営業利益率は 17.7%となりました。営業外収益 (投資有価証券売却益 4 百万円等) や営業外費用 (新株発行費 2 百万円等) を計上したことにより、経常利益は 145 百万円となりました。

(2) 当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

当第 1 四半期における財政状況は安定的に推移しており、経営成績に重要な影響を与える事象はありません。

(3) 営業の状況

当四半期における販売実績を事業の種類別に示すと、次のとおりであります。

区分	平成16年7月期第1四半期 (自平成15年8月1日 至平成15年10月31日)
	金額(千円)
直営事業	733,388
リーシング事業	42,637
マネジメント事業	24,795
V Aサービス事業	1,354
その他の事業	5,068
合計	807,244

- (注) 1 当社は一般の不特定多数の顧客を相手とするサービス業であります。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3 当四半期における直営事業の売上高及び四半期末の物件数を主たる地域別に示すと、次のとおりであります。

		平成16年7月期第1四半期 (自平成15年8月1日 至平成15年10月31日)	平成16年7月期第1四半期 (自平成15年8月1日 至平成15年10月31日)
		金額(千円)	物件数(件)
直 営 事 業	関東	379,172	142
	近畿	298,680	87
	東海	45,722	17
	九州	9,813	3
	計	733,388	249

3. 平成16年7月期の連結業績予想(平成15年8月1日~平成16年7月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
中間期	1,620	258	146
通期	3,650	651	371

(参考) 1株あたり予想当期純利益(通期) 7,031円46銭

[業績予想に関する定性的情報等]

平成15年9月12日に発表しております平成16年7月期の通期の業績見通しは上記の通りであり、本見通しに変更はございません。

[当社グループの四半期業績の特性]

当社グループの主要事業である直営事業はストック型の事業であり、売上高及び利益は直営物件数の伸びに伴い、概ね期首から期末に向け上昇する傾向があります。従いまして、今期の業績予想におきましても後半期のウェイトが高い業績予想となっております。

[業績予想に関する留意事項]

上記の予想につきましては、本資料作成日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績はさまざまな要因によって、上記予想数値と異なる可能性があります。

(参考)

1. 平成16年7月期第1四半期の個別業績概況(平成15年8月1日~平成15年10月31日)

(1) 個別経営成績

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
16年7月期第1四半期	618	46.6	107	63.6	109	68.6
15年7月期第1四半期	422		65		65	
(参考)15年7月期	1,967	58.0	360	92.9	356	95.6

(注)1. 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

2. パーセント表示は、対前年同期比増減率を示す。

[経営成績の進捗状況に関する定性的情報等]

当第1四半期においては積極的な営業展開をすることにより直営物件数を増加させ、また前期以前の受注済み物件からも確実に収益貢献を得て、業績を拡大いたしました。特に前期に獲得した大型商業施設併設駐車場、再開発された大型ビルの附置駐車場、ホテル併設駐車場などが売上、利益ともに大きく貢献しました。また店舗の統廃合を推進する金融機関等、遊休資産を抱える企業から受注した物件の稼働が堅調に推移し、直営事業において560百万円を計上した結果、売上高合計は618百万円となりました。

当社と連結子会社2社は連結ベースでの収益極大化を最優先させていく所存です。

2. 16年7月期の業績予想(平成15年8月1日~平成16年7月31日)

	売上高 百万円	経常利益 百万円	当期純利益 百万円	1株当たり年間配当金		
				中間	期末	
				円 銭	円 銭	円 銭
中間期	1,265	235	133	0 0	0 0	-
通期	2,849	593	338	0 0	-	0 0

(参考)1株当たり予想当期純利益(通期)6,407円35銭

[業績予想に関する留意事項]

上記の予想につきましては、本資料作成日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績はさまざまな要因によって、上記予想数値と異なる可能性があります。

以上